

## 淡海の川づくり検討委員会 議事概要

日時 : 平成 23 年 12 月 21 日(水) : 15:00~17:00  
場所 : コラボしが 3 階中会議室 1  
出席者 : 淡海の川づくり検討委員  
中川委員(委員長)、丸山委員、岩崎委員、立川委員(副委員長)  
小野委員

事務局 土木交通部 竹中部長  
流域政策局 美濃部局長  
河川・港湾室 西川室長、宇野室長補佐  
流域治水政策室 西寫室長、速水室長補佐、石山主幹、  
辻副主幹  
水源地域対策室 寺田室長、今井室長補佐、畑副主幹  
高島土木事務所河川砂防課 板谷課長、七里主幹、引山副主幹  
北川ダム建設事務所 饗庭所長、吉川主幹、民辻主査

傍聴者 : 報道機関 5 名



### 委員会としての意見

「北川ダム建設事業ダム検証に係る検討結果」を審議した結果、河道改修を先行する案が最も優位であるとする県の提案は妥当と判断した。

## 質疑

### ■ 検討結果について

立川副委員長：(時間的な観点からの評価) 資料で 1/50、1/100 と書いてあるが、今後策定される安曇川の河川整備計画でどのような位置づけになるのか。

事務局：ダム検証の方針が決定した後、来年度になると思うが河川整備計画を策定する予定で、当面の整備目標は約 1/30 とする。安曇川の治水計画は、将来 1/100 で検討を進めてきた経過があるので、残りの部分の対策(1/50～1/100)については参考資料という形で整備計画の中で整理していきたい。

関係住民の意見を踏まえて議論してきたので、将来目標も何らかの方法で残したい。

立川副委員長：県としては、河川整備基本方針相当のものとして 1/100 を考えたいということか。

事務局：淀川水系では整備方針は 1 つで、県の河川まで詳しく記載されていないが、滋賀県では県独自に河川整備方針は決めており、安曇川は将来 1/100、当面の整備目標約 1/30 としている。

小野委員：7 つの評価軸や「地先の安全度」は、1/30 を進めることを前提に評価しているが、(時間的な観点からの実現性)の説明では 1/50、1/100 の話が出てくるが、その場合の評価はどうなっているのか。

事務局：国からの検証基準では、当面の目標約 1/30 での評価を求められている。資料では 1/50 から 1/100 の部分も書いているが、この評価は求められていない。

小野委員：コメントとして、住民の立場から、1/100 と 1/30 の評価に矛盾がないようにすることが大事だと思う。

事務局：1/30 以外の部分は、評価の密度が低く、住民から見て少し不安ではないかというご指摘と理解した。

中川委員長：1/50、1/100 の評価は将来に行うと言うことで、今回はこの委員会の審議内容では無いと言う理解でよいか。

事務局：そうです。

立川副委員長：資料から目標を 1/50 の時はダム案が経済的に良いと、しかし、1/30 としたときは、どこまでの目標レベルを設定するかによって、ダムもまだあり得るということか。

事務局：資料 6 ページの 1/50 を目指す(ダム+河道改修)案を今回変え

たということではない。現状では第一ダムを先行し、あと第二ダムと河道改修をしないとイケないが、ダムはお金がかかり治水安全度が上がっていない状況。ここで、順番を変えてダムを先行するより河道改修を先にやる方が、治水安全度が早く上がるという検証結果ということである。

中川委員長 : 分かりやすい説明です。

丸山委員 : 長期的に 1/100 にするときは、住民意見にもあったが、ダムが必要という認識なのか。

事務局 : 昭和 32 年から下流の河道改修が約 4km 程、既にできており、それが治水安全度約 1/30、約 2100m<sup>3</sup>/s という流下能力となっている。

今の計画で上流まで進めていくと 2100 m<sup>3</sup>/s の河道改修に対して、例えば 1/50、1/100 の洪水をとった場合に流せない流量が出てきます。その部分を計画しているダムで調節するのが、現時点で持っている手法である。

ただ、このダム案がこれから先の段階でベストかどうかは、その段階で検証されるものと考えている。

立川副委員長 : 県独自で行われている「地先の安全度」の評価で、1/50、1/100 と大きくなるときに、ダムがある案が浸水家屋数が少ない、効果あるのはどのような理屈か教えて欲しい。

事務局 : 単純に言いますと、第一ダムだけで 1000 万 m<sup>3</sup> 治水容量があり、その分下流に流れてこないで氾濫流量が少なくなり、それで浸水家屋数が減っているということである。1000 万 m<sup>3</sup> 分はダム流域に限ってであるが雨が降らなかったのと同じことになり、ダムの洪水調節効果が出てくる。

中川委員長 : 流水型の洪水調節ダムは洪水のピークの時に効果がある。洪水時にはダムに洪水が貯留される。

立川副委員長 : とんでもない雨が降るとダムの効果がなくなってくるが、それでもダムも効果があると改めて理解した(計画規模を超える洪水時でも治水容量分はダムに貯留される)。

事務局 : ダムが効果的なのは、中央集中型のハイエトモデルを使っていることも影響している。

岩崎委員 : 現地も見て、地下水利用の中で地域の方が暮らされていることはわかりました。地元の意見で地下水への影響が心配されている。その辺りも配慮しながら河道改修を進めると書いてあるが、具体的にどうするのか。

- 事務局 : 今考えているのは、資料 62 ページの横断図で、地下水、伏流水は川の河床部、低い部分の影響を受けると考えられる。今回は洪水時に流れる時の断面を確保すれば安全度を確保できるので、点線で書いている高水敷の部分掘るということで、通常水の流れているところ（河床部）をさわらないことが一番効果的と考えている。
- ただ、地下水がどう流れているか、十分に分かっていないので、ダムの方針が決まれば地下水の動向を調査して確認したいと考えている。少しずつ様子を見ながら、調査をやりながら対応したい。
- 中川委員長 : 河道改修と書いてあるけれども、河道改修の具体的な説明が不足してないか。1/30 改修の時は、河床はいじらない方針ですね。
- 事務局 : そうです。
- 中川委員長 : 改修区間は砂州とか高水敷きを掘って断面を確保する方針で、なるべく河床ではないところをいじろうということ。
- 高水敷をどのくらい掘れば地下水の影響があるかについては、回答されたようにモニタリングしながら、影響も見ながらちょっとずつやっていく、それでいいと思う。
- もう少し住民の方によく説明された方がよいと思う。
- 岩崎委員 : 資料 40 ページで、概要で河床掘削と書かれている。この言葉遣いというのはすごく誤解を生みやすいかもしれないですね。
- 中川委員長 : 一部、どうしても河床にも手を入れるところは出てくると思うが、方針としては高水敷あるいは出っ張っている砂州、ふだん水のつかってないところを掘削すると、そのような理解でよろしいか。
- 事務局 : 参考資料 3-2、第 3 回「検討の場」参考資料 28 ページ以降に現時点でどこをどういうふうに掘削するという資料を示している。質問があったときに、河床ではなく高い部分を掘るということを、今現在考えているという説明をしており、ある程度理解はいただいていると思っている。
- 立川副委員長 : 河道改修の方針のなかで、この前現地を見学したときに二線堤がずいぶん残っているの、民地もありハードの対応は難しいかも知れないが、河川整備計画で位置づけられたら良いと思う。
- 事務局 : 流域治水対策の中で、二線堤や霞堤の保全是うたっており、効果を検証した上で保全を図りたいと言う基本的な考え方は持っている。

- 小野委員 : 資料で、何十年堤防の調査をされていないという意見や堤防にほころびがあるという意見が書いているが、堤防の調査はされているのか。
- 事務局 : 早期に改修をしないといけない河川をAランクからB、C、Dにランク分けし、それ以外に天井川、いわゆるTランク河川で、堤防の調査をして、対策が必要なところについては随時やっけていくことを進めている。  
少し補足させていただくが、天井川については、今説明したように、調査をやっているという状況である。  
ただ、ここで意見として出てきたのは、十分河川の維持管理ができていないという観点からである。  
滋賀県では、過去10年間ぐらい河川の維持管理費に十分予算が回ってなかった。  
今年から増額が認められて、今年度はそういう箇所への対応は、概ねできていると考えている。  
維持管理に対しての意見が多かったというのが、この検証を通じて言えることで、住民の意見は反映させていきたい。知事にもその旨を伝えている。
- 小野委員 : 改修では、堤防に存在感があり、住民に見える形で進めるほうが良い。
- 事務局 : 分かりました。
- 中川委員長 : 重要な意見である。超過洪水が起こった場合、堤防が重要な役割を果たす。超過洪水が発生することを十分頭に入れて進めて欲しい。
- 中川委員長 : 「北川ダム建設事業ダム検証に係る検討結果」により、河道改修を先行して行く案が最も優位であるということで、まとめてよろしいか。
- 委員 : 異議無し

以上